

第5学年 単元別学習内容一覧

◎ わくわく算数学習				
小単元	時	ページ	学習内容	
	1	6～9	○小数の加法・減法の計算の仕方を考える学習を通して、自分で考えるときの方法や説明の仕方、話し合いのやり方等算数学習の進め方を知る。 ○自分で考え、みんなで話し合う算数学習の進め方のよさに気づく。【態度】	

1 整数と小数					
目 標				指導時数・時期	
○ 整数や小数について、10倍や1/10にしたときの小数点の移動の仕方を考えることを通して、十進数の仕組みや表し方の理解を深めるとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う。				4時間	
(知) ・小数も整数と同じ十進位取り記数法をもとにしていることを理解し、整数や小数を10倍、100倍、1000倍した数や、1/10、1/100、1/1000にした数を求めることができる。				2学期制：4月上旬～4月中旬 3学期制：4月上旬～4月中旬	
(思) ・十進数の仕組みや表し方に着目して、整数や小数を10倍、100倍、1000倍したり、1/10、1/100、1/1000にしたりしたときの小数点の移動の仕方を考えることができる。					
(態) ・十進数の仕組みのよさに気づき、小数の仕組みや表し方について深く学ぼうとする。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんぴ	—	248	・4年「小数」の学習をふり返る。	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	10		○56.72について、数の構成や相対的な大きさを確認し、課題をつかむ。 【態 度】	
		11		○小数点の位置に着目し、56.72を10倍、1/10したときの数を考える。 【思判表】	
	2	12	・問4で、まず、10倍は×10、100倍は×100、1000倍は×1000であることを確認する。 ・問5では、5.71と比べて小数点がいくつ動いているかに着目させる。	○42.195を10倍、100倍、1000倍したときの小数点の位置の移動について考える。【思判表】 ○小数点に着目して、数の仕組みを理解する。【知・技】	★もっと練習 p.256に進む。
	3	13	・問7では、まず、1/10は÷10、1/100は÷100、1/1000は÷1000であることを確認する。 ・問9では、29.3と比べて小数点がいくつ動いているかに着目させる。	○108.9を1/10、1/100、1/1000にしたときの小数点の位置の移動について考える。【思判表】 ○小数点に着目して、数の仕組みの理解を深める。【知・技】	★もっと練習 p.256に進む。
学びのまとめ	4	14～15	・問4では、いちばん大きい数から順に考えさせる。 ・たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。 【知・技】 たしかめよう問1・問2 【思判表】 たしかめよう問3・問4 【態 度】 ふりかえろう	★やってみように取り組む。

2 体 積					
目 標				指導時数・時期	
○ 直方体や立方体の体積について、その比べ方や表し方を理解し、求め方や公式を考えたり単位を適切に用いて表現したりすることを通して、体積の理解を深めるとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う。				9時間	
(知) ・体積や容積の意味がわかり、単位「cm ³ 」「m ³ 」を知り、直方体や立方体の体積を求めることができる。				2学期制：4月中旬～4月下旬 3学期制：4月中旬～4月下旬	
(思) ・長方形や正方形の面積の求め方や公式をもとにして、直方体や立方体の体積の求め方や公式を考えたり、これを活用して簡単な複合図形の体積の求め方を工夫したりすることができる。					
(態) ・単位となる大きさの何個分としてももの大きさを数値化することのよさがわかり、進んでこれを活用しようとする。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんぴ	—	248	・4年「面積」の学習をふり返る。	○既習事項の理解を確かめる。	
①直方体・立方体の体積	1	16	・直方体と立方体の意味を確認する。	○直方体と立方体の大きさ比べを通して、体積について考えていくという単元の課題をつかむ。【態 度】	★問2で、体積の数値を変えて形をつくったり、形をつくってから体積を考えたりする。
		17	・1辺が1cmの立方体の積み木を用意し、実際に図のような立体をつくって示す。	○体積の単位 cm ³ について知り、1cm ³ の積み木で直方体や立方体の形をつくり、その数で体積を表すことができる。【知・技】	
	2	18～19	・問1では、積み木を並べて、その数の数え方に着目させる。 ・問2は、②と④のみに取り組ませ、①と③は次時の冒頭で前時の確認問題として取り扱ってもよい。	○縦3cm、横5cm、高さ4cmの直方体と1辺4cmの立方体の体積を、計算で求める方法を考え、公式を導く。【思判表】 ○公式を使って、直方体や立方体の体積を求める。【知・技】	★p.26問3のような、体積と縦と横がわかっていて高さを求める問題をつくり、自分で解いたり、解きあったりする。 ★もっと練習 p.256に進む。

	3	20	・まず、L字型の立体図形の中に直方体がないかを考えさせる。	○L字型の立体図形の体積の求め方を考え、説明する。【思判表】	★L字型の平面図形の学習を想起し、複数の解き方を考える。 ★もっと練習 p.257 に進む。
②大きな体積	4	21	・問3では、1mものさしなどで1m ³ の大きさをつくり、1cm ³ の積み木と比べて、1m ³ =1000000cm ³ になることをとらえさせる。 ・問4は、次時の冒頭で前時の確認問題として取り扱ってもよい。	○縦4m、横3m、高さ2mの直方体の体積を求めるのに、1m ³ の立方体を単位とすればよいことに気づく。【思判表】 ○体積の単位 m ³ について知り、m ³ を使って体積を表したり、cm ³ との関係を理解したりする。【知・技】	★問3では、面積との関係について考える。 ★もっと練習 p.257 に進む。
③容積	5	22	・問1では、まず、水槽などでは、外側と内側とで厚みの分だけ長さが異なることを確かめ、内の方に着目させる。(真横からの図と真上からの図を用意する) ・問2では、実際の1Lますを使って1L=1000cm ³ であることを確かめる。	○容積の意味を知り、直方体の形をした水槽の容積の求め方を考える。【思判表】 ○水などの体積を表すときによく用いられる単位Lとcm ³ の関係を理解する。【知・技】	
	6	23		○1m ³ の大きさをつくり、その量感をとらえる。【態度】 ○いろいろなもののおよその体積や容積を見当をつけてから調べる。【思判表】	★問2では、消しゴムの体積が6cm ³ という判断から、縦、横、高さがいくらかを見当づける。
④体積の単位の関係	7	24	・問1では、まず、正方形の面積や立方体の体積を求める公式を確認する。	○1辺の長さが1cm、10cm、1mの正方形の面積や立方体の体積を求めて、長さ・面積・体積の単位の関係を調べる。【思判表】	
●練習	8	25		○学習内容を確実に身につける。	
学びのまとめ	9	26～27	・たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。 【知・技】 たしかめよう問1・問2 【思判表】 たしかめよう問3・問4 【態度】 ふりかえろう	★やってみように取り組む。

3 比 例

目 標					指導時数・時期
○ 伴って変わる2つの数量について、その変化の様子や関係について調べたり考えたりすることを通して比例の意味を理解するとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。					2時間
(知) ・比例の意味を知り、簡単な場合についての比例の関係を理解することができる。					2学期制：5月上旬
(思) ・簡単な場合について、比例しているかどうかを判断することができる。					3学期制：5月上旬
(態) ・伴って変わる2つの数量の関係に関心を持ち、進んで表や図を使って考えたり、説明したりしようとする。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんぴ	—	249	・4年「変わり方」の学習をふり返る。	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	28 29～30	・問2は、本時では省き、次時の冒頭で前時の確認問題として取り扱ってもよい。	○レンガを積み重ねたとき、植木鉢を積み重ねたときの高さの変わり方に関心をもつ。【態度】 ○レンガを積み重ねたときの個数と高さの関係を調べ、比例する関係をとらえる。【知・技】 ○植木鉢を積み重ねたときの個数と高さの関係を調べ、比例しないことを説明する。【思判表】	
	2	31		○1m80円のリボンを9m買ったときの代金を求める式の意味を、比例の関係をもとにとらえ直す。【態度】	★買うリボンの長さをいろいろに変えて、関係図や数直線図をかく。

* 復習

小単元	時	ページ	学習内容
	1	32～33	○既習事項の確認と持続

4 小数のかけ算

目 標					指導時数・時期
○ 小数をかける計算について、その意味や仕方を考えたり説明したりすることを通して小数のかけ算になる場面をとらえて計算できるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。					11 時間 2 学期制：5 月中旬～5 月下旬 3 学期制：5 月中旬～5 月下旬
(知) ・小数の乗法の意味やその仕方を理解し、小数の乗法の計算ができる。また、小数の計算においても交換法則や結合法則、分配法則が成り立つことを知る。					
(思) ・小数の乗法の意味やその仕方について、既習の整数の場合をもとにしたり、小数の仕組みや計算のきまりをもとにしたりして考えることができる。					
(態) ・図を用いたり、小数の仕組みや計算のきまりを用いたりして、小数の乗法の意味とその計算の仕方を考えようとする。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんぴ	—	249	・4 年「小数×整数」の学習をふり返る。	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	34	・乗数が整数のときから類推して、こ	○1m80 円のリボンを 2.3m 買ったと	★次時に向けて複数の計算の仕方を
①整数×小数		35	とばの式を使って立式させる。	きの代金を求めるという課題をつかむ。【態 度】 ○80×2.3 の意味について考え、数直線図や関係図を使って説明する。【思判表】	考える。
	2	36～37	・問 2 では、80×23=1840 との違いから、80×2.3 の計算の仕方を考えさせる。	○80×2.3 の計算の仕方を、整数の計算に帰着させて考え、説明する。【思判表】 ○200×1.8 の立式と計算をする。【知・技】	★複数の計算の仕方を話しあい、まとめる。
	3	38～39	・問 1 は、全体で確認しながら考えていく。	○3×0.8 の立式と計算ができる。【知・技】 ○1m3kg のぼうについて、0.5m, 0.8m, 1m, 1.5m, 2m の重さをかけ算で求めて、被乗数と積の大小関係について考察する。【思判表】	
②小数×小数	4	40	・問 3 の①や問 4 の①で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、本時では省き、第 7 時で扱うことも可)	○1.8×0.3 や 1.8×0.04 の計算の仕方を考え、説明する。【思判表】 ○簡単な(小数)×(小数)の計算をする。【知・技】	★もっと練習 p.258 に進む。
	5	41	・問 3 の①や問 4 の①③で筆算の仕方を確認する。(その他の小問は、本時では省き、第 7 時で扱うことも可)	○これまでに学習したことをもとに、4.2×3.4 の筆算の仕方を考える。【態 度】 ○(小数)×(小数)を筆算で計算する。【知・技】	★もっと練習 p.258 に進む。
	6	42	・問 6 の①⑤や問 8 の①で筆算の仕方を確認する。(その他の小問は、本時では省き、第 7 時で扱うことも可)	○2.8×0.75 や 0.18×0.24 など、積の末尾の 0 を消したり、積に空位の 0 をつけたしたりして筆算する。【思判表】	★もっと練習 p.258 に進む。
●練習	7	43		○学習内容を確実に身につける。	
③小数のかけ算を使って	8	44～45	・問 1 の㉔、㉕は、全体で確認しながら考えていく。	○辺の長さが小数の場合の面積や体積の求め方を考え、説明する。【思判表】 ○辺の長さが小数の場合にも、面積や体積を求める公式が使えることを理解し、適用する。【知・技】	★もっと練習 p.259 に進む。
	9	46～47	・問 2 では、電卓を用いたり、分担して取り組んだりする。 ・問 4 は、次時の冒頭で前時の確認問題として取り扱ってもよい。	○小数の場合にも分配法則や交換法則、結合法則が成り立つことを確かめる。【態 度】 ○計算法則を使って、工夫して手際よく計算する。【知・技】	★もっと練習 p.259 に進む。
④割合を表す小数	10	48～49	・関係図にかいて数量の関係をとらえてから、立式させる。	○20cm の 1.6 倍の長さや、16cm や 32cm が 20cm の何倍かを求めて、考えたことを図や式を使って説明する。【思判表】 ○割合が小数で表される場合の比較量や割合を求める。【知・技】	★もっと練習 p.259 に進む。
学びのまとめ	11	50～51	・たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。【知・技】 たしかめよう問 1～問 3 【思判表】 たしかめよう問 4・問 5 【態 度】 ふりかえろう	★やってみように取り組む。

5 小数のわり算

目 標					指導時数・時期
○ 小数でわる計算について、その意味や仕方を考えたり説明したりすることを通して小数のわり算になる場面をとらえて計算できるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。					14 時間
(知) ・小数の除法の意味やその仕方を理解し、小数の除法の計算ができる。					2 学期制：6 月上旬～6 月下旬
(思) ・小数の除法の意味やその仕方について、既習の整数の場合をもとにしたり、小数の仕組みや計算のきまりをもとにしたりして考えることができる。					3 学期制：6 月上旬～6 月下旬
(態) ・図を用いたり、小数の仕組みや計算のきまりを用いたりして、小数の除法の意味とその計算の仕方を考えようとする。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんぴ	—	250	・4 年「小数÷整数」の学習をふり返る。	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	52	・除数が整数のときから類推して、ことばの式を使って立式させる。	○2.4m で 96 円のひも 1m 分の値段を求めるという課題をつかむ。 【態 度】 ○96÷2.4 の意味について考え、数直線図や関係図を使って説明する。 【思判表】	★次時に向けて複数の計算の仕方を考える。
①整数÷小数		53			
	2	54～55	・問 2 では、 $960 \div 24 = 40$ との違いから、 $96 \div 2.4$ の計算の仕方を考えさせる。	○ $96 \div 2.4$ の計算の仕方を、整数の計算に帰着させて考え、説明する。 【思判表】 ○ 80×1.6 の立式と計算をする。【知・技】	★複数の計算の仕方を話しあい、まとめる。
	3	56～57	・問 1 は、全体で確認しながら考えていく。	○ $720 \div 0.8$ の立式と計算をする。 【知・技】 ○重さはどれも 720g で、長さが 0.5m, 0.8m, 1m, 1.5m, 2m の 5 種類ホースについて、1m 分の重さをわり算で求めて、被除数と商の大小関係について考察する。【思判表】	
②小数÷小数	4	58	・問 3 の①や問 4 の①で計算の仕方を確認する。(その他の小問は、本時では省き、第 9 時で扱うことも可)	○ $1.05 \div 0.7$ や $2.4 \div 0.08$ の計算の仕方を考え、説明する。【思判表】 ○簡単な(小数)÷(小数)の計算をする。【知・技】	★もっと練習 p.260 に進む。
	5	59	・問 3 の①や問 4 の①③で筆算の仕方を確認する。(その他の小問は、本時では省き、第 9 時で扱うことも可)	○これまでに学習したことをもとに、 $4.65 \div 1.5$ の筆算の仕方を考える。【態 度】 ○(小数)÷(小数)を筆算で計算する。 【知・技】	★もっと練習 p.260 に進む。
	6	60	・問 6 の①⑤や問 8 の①で筆算の仕方を確認する。(その他の小問は、本時では省き、第 9 時で扱うことも可)	○ $2.55 \div 7.5$ や $8 \div 2.5$ など、被除数に空位の 0 をつけたしてわり進む筆算をする。【思判表】	★もっと練習 p.260 に進む。
	7	61	・問 11 では、わり切れないことに気づいた後で、四捨五入の意味や手順を確認する。(その他の小問は、本時では省き、第 9 時で扱うことも可)	○ $5.2 \div 0.6$ など、わり進んでわり切れないときの商を概数で表す。 【知・技】	★もっと練習 p.260 に進む。
	8	62	・問 2 の①で余りの求め方を確認する。(その他の小問は、本時では省き、第 9 時で扱うことも可)	○24.5m のロープを 5.6m ずつに切っていくときの商と余りを求めて、考えたことを説明する。【思判表】 ○(小数)÷(小数)で、商と余りを求める。【知・技】	★もっと練習 p.261 に進む。
●練習	9	63		○学習内容を確実に身につける。	
③割合を表す小数	10	64～65	・関係図にかいて数量の関係をとらえてから、立式させる。	○2.4m の 0.75 倍の長さや、1.2m や 3m が 2.4m の何倍かを求めて、考えたことを図や式を使って説明する。【思判表】 ○1.2m の 1.5 倍や、3m が 1.2m の何倍かを求める。【知・技】	★もっと練習 p.261 に進む。
	11	66～67	・関係図にかいて数量の関係をとらえてから、立式させる。	○できた影の長さ 60cm が身長 0.4 倍のとき、身長を求めて、考えたことを説明する。【思判表】 ○割合が小数で表される場合の基準量を求める。【知・技】	★もっと練習 p.261 に進む。

	12	68～69	<ul style="list-style-type: none"> 関係図にかいて数量の関係をとらえてから、立式させる。 問3は、次時の冒頭で前時の確認問題として取り扱ってもよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○2000m²の公園があって、広場はそそ0.4倍、芝生はさらにその0.8倍の面積のとき、芝生の面積の求め方を考える。【思判表】 ○赤、青、白の3つのボールがあって、白の直径の1.4倍が青の直径、青の直径の2.5倍が赤の直径24.5cmのとき、白の直径の求め方を考える。【思判表】 	★問1や問2のような問題をつくり、自分で解いたり、解きあったりする。
④計算の間の関係	13	70～71	<ul style="list-style-type: none"> 問1では、絵や線分図をもとに考えさせる。 問2や問3では、□を使って式に表すことのみを取り扱い、問4で□にあてはまる数の求め方を取り扱うようにしてもよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○加法と減法、乗法と除法の関係に着目して、□+0.8=2.4 や□×1.5=2.4 の□にあてはまる数を求める。【態度】 	★問2のような問題をつくり、自分で解いたり、解きあったりする。
学びのまとめ	14	72～73	<ul style="list-style-type: none"> たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習内容の理解を確認する。【知・技】たしかめよう問1～問3【思判表】たしかめよう問4・問5【態度】ふりかえろう 	★やってみように取り組む。

6 合同な図形

目 標					指導時数・時期
○ 合同な図形や多角形の角の大きさについて、図形を重ね合わせる活動を通して合同の意味を理解し、合同な図形の性質や作図の仕方を考えたり多角形の角の大きさを調べたりすることを通して、平面図形についての理解を深めるとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う。					11 時間 2 学期制：6 月下旬～7 月上旬 3 学期制：6 月下旬～7 月上旬
(知) ・合同の意味や性質を理解し、頂点、辺、角の対応をみつけて合同な図形を作図することができる。また、三角形や四角形の内角の和についても理解することができる。 (思) ・合同の観点から既習の基本図形の性質を考えたり、合同な図形の実作図や多角形の内角の和の求め方を通して形や大きさのきまり方を考えたりすることができる。 (態) ・身のまわりや既習の図形の見方に関心をもち、進んで合同な図形の性質調べや作図などに取り組もうとする。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんぴ	—	250	・3 年「三角形」、4 年「角とその大きさ」の学習をふり返る。	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	74～75	・まず予想させてから、㊸や㊹を切り取って重ねて調べていく。	○三角形や四角形を重ね合わせて、形も大きさも同じものを見つける。【態度】 ○合同の意味を理解する。【知・技】	★「ずらす」「うら返す」「回す」などの操作をことばでまとめる。
①合同な図形	2	76～77		○合同な三角形や四角形で、対応する頂点、辺、角を見つけ、対応する辺の長さや角の大きさが等しいことを理解する。【知・技】	★もっと練習 p.262 に進む。
	3	78		○長方形や平行四辺形、台形を対角線で切り、できた三角形について合同の観点から考察する。【思判表】	★正方形やひし形についても、対角線 1 本で切ったとき、及び、2 本で切ったときにできる三角形が合同かどうかを調べ、表にまとめる。
②合同な図形のかき方	4	79	・点や辺に着目しながら、薄い紙に写し取らせる。	○合同な三角形をかくための見通しを立てる。【態度】 ○いろいろなかき方を考え、説明する。【思判表】	
	5	80～81	・コンパスの使い方や分度器の使い方を確認する。	○合同な三角形のかき方を理解し、3 つの方法で作図する。【知・技】	★もっと練習 p.262 に進む。
	6	82	・問4では、まず、辺 BC を作図して、頂点 A の決め方を考える。	○合同な三角形のかき方をともに、合同な四角形のかき方を考え、作図する。【思判表】	
③三角形・四角形の角	7	83～84	・問2では、㊻、㊼のいずれか一方の方法で調べる。	○三角形の3つの角の大きさの和に関心をもち、調べる。【態度】 ○三角形を敷き詰めたり、角を集めたりする操作を通して、三角形の3つの角の大きさの和が 180° になることを理解する。【知・技】	
	8	85		○三角形の内角の和が 180° であることを適用して、様々な角の大きさを求める問題を解き、説明する。【思判表】	★もっと練習 p.263 に進む。
	9	86～87	・問1では、児童に予想させた後、㊽の考え方を教師が示し、㊾を児童に取り組みさせるようにしてもよい。	○三角形の内角の和が 180° であることをもとに、四角形の内角の和の求め方を考え、説明する。【思判表】 ○四角形の内角の和が 360° であることを理解する。【知・技】	★複数の説明の仕方を考える。 ★もっと練習 p.263 に進む。

	10	88～89	○多角形について知り、三角形の内角の和が 180° であることや四角形の内角の和が 360° であることをもとに、多角形の内角の和を求める。【知・技】 ○多角形の内角の和の変わり方のきまりに気づく。【思判表】	★n 角形のときの角の大きさの和を、式でどのように表すことができるかを考え、話しあう。(p.233 コラム)
学びのまとめ	11	90～91	・たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。 ○学習内容の理解を確認する。【知・技】 たしかめよう 問 1～問 3 【思判表】 たしかめよう 問 4 【態 度】 ふりかえろう	

活 わくわく算数ひろば

小単元	時	ページ	学習内容
思 人文字	1	92～93	○文字の形になるように一定の間隔で並んだ人の数と間の数の関係を図に目して、問題を解く。【思判表】
●どんな計算になるのかな	2	94～95	○小数のかけ算やわり算の演算決定をし、その根拠を説明する。【思判表】
●算数の自由研究	3	96～97	○「しきつめよう」といった自由研究に取り組み、見通しをもって考え、粘り強く取り組む。【態度】

* 復習

小単元	時	ページ	学習内容
	1	98～99	○既習事項の確認と持続

7 整 数

目 標				指導時数・時期	
○ 整数の性質について、偶数・奇数や倍数・約数の意味を理解し、倍数や約数の求め方を考えたりそれらを使って問題解決したりすることを通して整数の見方・考え方を深めるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。				10 時間 2 学期制：7 月中旬～9 月中旬 3 学期制：9 月上旬～9 月中旬	
(知) ・偶数・奇数の意味や倍数・約数などの意味を理解し、整数の性質についての理解を深め、整数を偶数と奇数に類別したり、倍数・約数などを求めたりすることができる。 (思) ・整数を偶数・奇数という観点から類別したり、倍数・約数という観点から考察したりすることができる。 (態) ・偶数・奇数、及び、倍数・約数の意味をもとに、整数の性質を見出そうとしたり、問題を解決しようとする。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんぴ	—	250	・3 年「わり算」の学習をふり返る。	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	100	・導入では、まず、実際にカードを用意しておき、交互に赤白に割り振っていく様子を示す。	○20 人を 2 組に分ける仕方を考えることを通して、単元の課題をつかむ。【態 度】	★もっと練習 p.264 に進む。
①偶数・奇数		101		○0 から 20 までの整数を偶数と奇数に類別する。【知・技】	
②倍数と公倍数	2	102	・半具体物などで具体的な操作を演示してみせる。	○3 人 1 組をつくるときの人数を調べることを通して、倍数について調べる。【知・技】 ○0 から 50 までの整数から、いろいろな数の倍数を見つける。【知・技】	
	3	103	・半具体物などで具体的な操作を演示してみせる。	○3 人 1 組と 4 人 1 組をつくるときの人数を調べることを通して、公倍数や最小公倍数について調べる。【知・技】	★公倍数が最小公倍数の倍数になっていることを、いろいろな 2 数で調べて話しあう。
	4	104		○公倍数や最小公倍数の見つけ方を考え、工夫して見つける。【思判表】	★手際のよい方法を考える。 ★3 つ以上の数についても考える。 ★もっと練習 p.264 に進む。
	5	105	・実際の長方形のタイルを提示し、イメージをもたせる。	○縦 6cm、横 8cm の長方形を敷き詰めて正方形をつくるとき、長方形の並べ方や 1 辺の長さについて、公倍数を使って考える。【態 度】	★もっと練習 p.264 に進む。
	③約数と公約数	6	106	・半具体物などで具体的な操作を演示してみせる。	○12 本の花を余りなく分けることを通して、約数について調べる。【知・技】 ○いろいろな数の約数を調べる。【知・技】
	7	107	・半具体物などで具体的な操作を演示してみせる。	○12 本と 18 本の花を余りなく分けることを通して、公約数や最大公約数について調べる。【知・技】	★公約数は最大公約数の約数になっていることを、いろいろな 2 数で調べて話しあう。
	8	108		○公約数や最大公約数の見つけ方を考え、工夫して見つける。【思判表】	★手際のよい方法を考える。 ★3 つ以上の数についても考える。 ★もっと練習 p.265 に進む。

	9	109	・方眼黒板などを提示し、問題の意味をしっかりとつかませる。	○縦 18cm, 横 12cm の方眼紙から正方形を切り出すとき、正方形の切り出し方や 1 辺の長さについて、公約数を使って考える。【態 度】	★もっと練習 p.265 に進む。
学びのまとめ	10	110～111	・たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。 【知・技】 たしかめよう問 1～問 5 【思判表】 たしかめよう問 6 【態 度】 ふりかえろう	★やってみように取り組む。 ★素数について触れ、児童の関心に 応じて「エラトステネスのふるい」 を紹介してもよい。

8 分 数(1)					
目 標				指導時数・時期	
○ 分数について、分母が異なるときの比較や加減計算の仕方を考えたり説明したりすることを通して、約分や通分の意味を理解して処理できるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。				9 時間 2 学期制：9 月中旬～10 月上旬 3 学期制：9 月下旬～10 月上旬	
(知) ・分数の約分・通分について理解し、異分母分数の加減計算ができる。 (思) ・単位の考えに着目して、異分母分数の加法や減法の計算の仕方を考えることができる。 (態) ・進んで分数の性質を調べたり、いろいろな分数の加減計算に取り組もうとしたりする。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんぴ	—	251	・4 年「分数」の学習をふり返る。	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	112	・導入では、図をもとに分数の意味を確認する。	○1/2, 1/3, 1/6 を組み合わせて 1/2 の大きさをつくることを通して、分数について考えていくという単元の課題をつかむ。【態 度】 ○等しい分数のつくり方とその性質について理解する。【知・技】	
①等しい分数		113～114			
	2	115	・問 3 の①③で約分の仕方を確認する。(その他の小問は、本時では省き、次時の冒頭で前時の確認問題として扱うことも可) ・約分の表記の仕方をしっかりおさえる。	○等しい分数の性質をもとに約分の意味を理解し、15/20 や 18/24 を約分する。【知・技】	★効率よく約分する仕方について話しあう。 ★もっと練習 p.265 に進む。
	3	116		○3/5 と 2/3 の大きさを比べることを通して、等しい分数の性質をもとに通分の意味を理解する。【知・技】 ○異分母分数の大小を比較し、不等号を使って式に表す。【知・技】	
	4	117		○5/6 と 3/4 を通分したり、1/4 と 2/3 と 1/2 を通分したりして、通分の仕方について理解を深める。【思判表】	★効率よく通分する仕方について話しあう。 ★もっと練習 p.266 に進む。
②分数のたし算・ひき算	5	118	・問 2 の①⑤で計算の仕方を確認する。(その他の小問は、本時では省き、次時の冒頭で前時の確認問題として扱うことも可)	○1/2L と 1/3L のジュースの和や差を求める場面で、異分母分数の加減計算の仕方を考える。【思判表】 ○異分母分数図の加減計算をする。【知・技】	★もっと練習 p.266 に進む。
	6	119	・問 4 の①⑤で計算の仕方を確認する。(その他の小問は、本時では省き、次時の冒頭で前時の確認問題として扱うことも可) ・約分を忘れやすいので常に分母と分子の公約数に着目させる。	○答えが約分できる場合や 3 口の場合の異分母分数の加減計算をする。【知・技】	★もっと練習 p.266 に進む。
	7	120	・問 8 の①④で計算の仕方を確認する。(その他の小問は、本時では省き、次時の問 4 とあわせて扱うことも可)	○帯分数を含む場合の異分母分数の加減計算をする。【知・技】	
●練習	8	121		○学習内容を確実に身につける。	
学びのまとめ	9	122～123	・たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。 【知・技】 たしかめよう問 1～問 4 【思判表】 たしかめよう問 5 【態 度】 ふりかえろう	★やってみように取り組む。

思 図を使って考えよう					
目 標				指導時数・時期	
○ 文章題において、問題場面を図に表して同じものに着目して解法を考えることを通して、相殺や置換の考え方を活用して解くことができるようにするとともに、用いた図や見方・考え方を生活や学習に活用しようとする態度を養う。				2 時間 2 学期制：10 月上旬 3 学期制：10 月上旬	
(知) ・相殺や置換の考え方を理解することができる。 (思) ・数量の関係を図に整理し、同じものに目をつけて相殺や置換の考え方を活用して解決することができる。 (態) ・相殺や置換の考え方を活用して解く思考法のよさがわかり、進んで活用しようとする。					

小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
	1	124	・問題文を読みながら図をていねいにかき、紹介する。	○入場券と乗り物券を 2 つの買い方で買ったときの合計から、それぞれの券 1 枚の値段を求める。【思判表】	
	2	125	・問題文を読みながら図をていねいにかき、紹介する。	○大人と子どもが 32 人で、子どもが大人の 3 倍いるとき、大人と子どものそれぞれの人数を求める。【思判表】	

＊ 復習					
小単元	時	ページ	学習内容		
	1	126～127	○既習事項の確認と持続		

9 面積					
目 標				指導時数・時期	
○ 三角形や四角形の面積について、その求め方や公式を考えたり説明したりすることを通して、面積を求めることができるようにしたり平面図形の見方・考え方を深めたりするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。				13 時間 2 学期制：10 月中旬～11 月上旬 3 学期制：10 月中旬～11 月上旬	
(知) ・底辺と高さの意味を理解し、公式を用いるなどして三角形や四角形の面積を求めることができる。					
(思) ・既習の面積公式をもとに、三角形や平行四辺形などの面積を工夫して求めたり、公式をつくったりすることができる。					
(態) ・既習の面積公式をもとに、三角形や平行四辺形などの面積の求め方や公式を進んで見いだそうとする。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんぴ	—	251	・4 年「面積」, 「垂直・平行と四角形」, 5 年「合同な図形」の学習をふり返る。	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	128	・導入では、長方形と正方形の面積の求め方を確認する。	○直角三角形の面積の求め方を考える。【知・技】 ○三角形などの面積について考えていくという単元の課題をつかむ。【態 度】	★p.128～129 の図形を見て、どの順に考えていけばよいかの見通しを立てる。
①三角形の面積		129～130			
	2	131		○三角形の面積の求め方を考える。【思判表】	★複数の解決方法を考える。
	3	132～133	・まず、これまでの学習で長方形や直角三角形の面積を求めたことをおさえる。	○三角形の面積公式を導く。【態 度】 ○公式を使って三角形の面積を求める。【知・技】	★コラム「三角形の底辺と高さ」で、底辺と高さを変えて面積を求める。 ★もっと練習 p.267 に進む。
②平行四辺形の面積	4	134～135	・まず、これまでの学習で長方形や三角形の面積を求めたことをおさえる。 ・長方形への変形は理解しづらい子がいる。実物を使って演示するとよい。	○平行四辺形の面積の求め方を考える。【思判表】	★複数の解決方法を考える。
	5	136～137		○平行四辺形の面積公式を導く。【態 度】 ○公式を使って平行四辺形の面積を求める。【知・技】	★コラム「平行四辺形の面積の公式を使って」で、平行四辺形の面積の公式から三角形の面積の公式を導く。 ★もっと練習 p.267 に進む。
	6	138～139		○高さが外にある場合の三角形や平行四辺形の面積の求め方を考える。【思判表】 ○高さが外にある場合に公式を使って面積を求める。【知・技】	★もっと練習 p.268 に進む。
③台形・ひし形の面積	7	140～141	・必ず使っている長さに着目させる。	○台形の面積の求め方を考え、面積公式を導く。【思判表】 ○公式を使って台形の面積を求める。【知・技】	★複数の解決方法を考える。 ★コラム「三角形の面積の公式を使って」で、三角形の面積の公式から台形の面積の公式を導く。 ★もっと練習 p.268 に進む。
	8	142	・問2までを確実に身につけさせる。 (問3は次時の問4の後に扱うことも可)	○ひし形の面積の求め方を考え、面積公式を導く。【思判表】 ○公式を使ってひし形の面積を求める。【知・技】	★複数の解決方法を考える。 ★もっと練習 p.269 に進む。
●練習	9	143		○学習内容を確実に身につける。	
④面積の求め方のくふう	10	144～145		○一般四角形の面積を三角形に分割して求める。【思判表】	★問3から取り組む。 ★三角形に分割するよさについて話しあう。

	11	146		○底辺の長さが等しく、高さも等しい三角形や平行四辺形は、面積も等しくなることを理解する。【知・技】	★平行な直線を利用すると、等積変形できることに気づかせる。 ★もっと練習 p.269 に進む。
⑤面積の比例	12	147	・問 1 では、比例の意味を確認する。	○三角形の高さや底辺の長さを変えたとき面積の変わり方を調べる。【知・技】	★「平行四辺形や台形ではどうだろうか」と調べる対象を拡張し、主体的に取り組むように促す。
学びのまとめ	13	148～149	・たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。 【知・技】 たしかめよう 問 1 ・ 問 2 【思判表】 たしかめよう 問 3 【態 度】 ふりかえろう	★やってみように取り組む。

10 平均とその利用					
目 標				指導時数・時期	
○ 平均について、その意味や求め方を理解し、いろいろな場面で平均を調べたり平均を使って考えたりすることを通して、その理解を深めるとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う。				6 時間	
(知) ・平均の意味や求め方を理解し、平均を求めたり、それを用いて長さなどを概則したりすることができる。				2 学期制：11 月上旬～11 月中旬	
(思) ・平均の意味にもとづいて、部分の平均から、全体量の見積もり方を考えたり、全体の平均の求め方を考えたりすることができる。				3 学期制：11 月上旬～11 月中旬	
(態) ・平均を用いることのよさに気づき、進んで身近な事柄の考察や表現に用いようとする。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんぴ	—	252	・4 年「小数÷整数」の学習をふり返る。	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	150	・計算が困難な場合は、電卓を使わせる。	○グレープフルーツ 1 個からとれるジュースの量がどれくらいかを調べる場面で量をならして考えることを通して、単元の課題をつかむ。 【態 度】 ○平均の意味や求め方について理解する。【知・技】	
①平均		151			
	2	152		○図書室で 1 日平均何冊の本が借りられているかを調べる場面で、0 を含む場合の平均の求め方を考える。【思判表】 ○本の冊数や人の数などの離散量でも、平均は小数になる場合があることを理解する。【知・技】	★もっと練習 p.270 に進む。
	3	153		○4 個のトマトの重さから、30 個分の重さを見積もる。【知・技】 ○身のまわりの平均について調べる。【態 度】	★もっと練習 p.270 に進む。
	4	154		○2 組に分かれてペットボトルキャップを集める場面で、それぞれの人数と平均の個数から、全体の平均の個数を求める。【知・技】	
②平均を使って	5	155		○歩幅を調べるのに、誤差をなくする方法として平均を用いればよいことに気づき、それを活用する。【態 度】	★測定の誤差をなくするためには、何回か調べてその平均をとればよいことに気づかせる。 ★コラム「平均の求め方のくふう」で、仮平均を利用する方法を知り、活用する。
学びのまとめ	6	156～157	・たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。 【知・技】 たしかめよう 問 1 ・ 問 2 【思判表】 たしかめよう 問 3 【態 度】 ふりかえろう	★やってみように取り組む。(距離を調べるのは校内のどこかでよい。)

11 単位量あたりの大きさ					
目 標				指導時数・時期	
○ 混みぐあいなどについて、その比べ方や表し方を考えたり説明したりすることを通して単位量あたりの大きさを求めて比べることができるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。				4 時間	
(知) ・単位量あたりの大きさを求めたり、それを使って混みぐあいなどを比べたりすることができる。				2 学期制：11 月中旬	
(思) ・混みぐあいなどの異種の 2 量が関係する事柄の程度の比べ方を考え、単位量あたりの大きさを使って表したり、程度の大小を判断したりすることができる。				3 学期制：11 月中旬	
(態) ・単位量あたりの大きさを比較することのよさがわかり、進んで身のまわりの異種の 2 量が関係する事柄の程度を比べようとする。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんぴ	—	252	・4 年「小数÷整数」、5 年「小数のわり算」の学習をふり返る。	○既習事項の理解を確かめる。	

(課題設定)	1	158 159～160	<ul style="list-style-type: none"> 導入で、混みぐあいと人数と広さが関係していることをとらえさせる。 問1では、商の四捨五入の仕方を知らせてから計算させる。 計算が困難な場合は、電卓を使わせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 4 部屋の混みぐあいの比べ方を考えることを通して、単元の課題をつかむ。【態度】 単位量あたりの大きさを混みぐあいを比べる。【知・技】 	<ul style="list-style-type: none"> ★複数の解決方法を考える。 ★よりよい解決方法を話しあう。
	2	161	<ul style="list-style-type: none"> 問1では、まず、1枚あたりの値段を求めれば比べられることをおさえる。 	<ul style="list-style-type: none"> 写真をプリントするのに、25枚で750円と40枚で1400円のどちらが安いかを、1枚あたりの値段に着目して比べる。【思判表】 	<ul style="list-style-type: none"> ★問1では、まず、1枚あたりの値段を比べる方法と、1円あたりの枚数を比べる方法では、どちらがわかりやすいかを話しあう。 ★もっと練習 p.271 に進む。
	3	162		<ul style="list-style-type: none"> 人口密度や燃費などの身のまわりでよく用いられる単位量あたりの大きさについて知る。【態度】 	<ul style="list-style-type: none"> ★もっと練習 p.271 に進む。
学びのまとめ	4	163	<ul style="list-style-type: none"> たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容の理解を確認する。【知・技】 たしかめよう問1・問2 【思判表】 たしかめよう問3 【態度】 ふりかえろう 	

12 分 数(2)					
目 標				指導時数・時期	
○ 分数について、商としての分数の意味を理解し、分数や小数・整数の関係を調べたり分数を使って割合の問題を解決したりすることを通して、分数の理解を深めるとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う。				5 時間 2 学期制：11 月中旬～11 月下旬 3 学期制：11 月中旬～11 月下旬	
(知) ・商としての分数の意味や、分数と小数・整数の関係について理解することができる。 (思) ・分数の意味や表現に着目して、商を分数で表したり、分数と小数・整数の関係について考えたりすることができる。 (態) ・分数のよさが分かり、進んで分数の性質を調べたり、分数のさまざまな意味をまとめたりしようとする。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんぴ	—	252	<ul style="list-style-type: none"> 3, 4 年「分数」、5 年「分数(1)」の学習をふり返る。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項の理解を確かめる。 	
(課題設定) ①わり算と分数	1	164 165	<ul style="list-style-type: none"> 問3の①③で商の表し方を確認する。(その他の小問は、本時では省き、次時の冒頭で前時の確認問題として扱うことも可) 電卓を使用させてもよい。 $2L \div 3 = 2/3L$, $1L \div 4 = 1/4L$ などリットルマスの図を使って理解させ、$\Delta \div \square = \Delta/\square$ を導く。 	<ul style="list-style-type: none"> ジュースを 3 等分する場面で、単元の課題をつかむ。【態度】 $2 \div 3$ の商の表し方を考える。【思判表】 $(\text{整数}) \div (\text{整数})$ の商を分数で表す。【知・技】 	<ul style="list-style-type: none"> ★もっと練習 p.271 に進む。
	2	166～167	<ul style="list-style-type: none"> 関係図を示し、何倍かを考えるときには関係図を使ってきたことを想起させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 4 本のテープの長さを比べ、その関係が何倍になっているかを求める。【思判表】 何倍になっているかを分数で求める。【知・技】 	<ul style="list-style-type: none"> ★もっと練習 p.272 に進む。
	3	168	<ul style="list-style-type: none"> 問1では、まず、$3/4$ を $3 \div 4$ とわり算の式に直せばよいことを全体で確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 分数を除法の商とみて、分数を小数で表す。【知・技】 	<ul style="list-style-type: none"> ★もっと練習 p.272 に進む。
②分数と小数・整数の関係	4	169	<ul style="list-style-type: none"> 問5では、まず、0.7 を $7/10$ とできることを全体で確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 整数・小数を分数で表す方法を考え、整数・小数と分数を数として統合的にとらえる。【思判表】 	<ul style="list-style-type: none"> ★もっと練習 p.272 に進む。
	5	170～171	<ul style="list-style-type: none"> たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容の理解を確認する。【知・技】 たしかめよう問1～問4 【思判表】 たしかめよう問5 【態度】 ふりかえろう 	<ul style="list-style-type: none"> ★やってみように取り組む。

13 割 合					
目 標				指導時数・時期	
○ 割合について、その意味や百分率などの表し方を理解し、割合を使った問題や割合が増減する問題を解決することを通して、割合の見方・考え方を深めるとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う。				9 時間 2 学期制：11 月下旬～12 月中旬 3 学期制：11 月下旬～12 月中旬	
(知) ・割合の意味と表し方を理解し、百分率などを用いて数量の関係を正しくとらえて計算処理することができる。 (思) ・割合を用いて、数量の関係を考えたり、比較したりすることができる。また、割合の和や差、積を考えて問題を解くことができる。 (態) ・割合で考えたり比較したりすることのよさを知り、これを用いて数量の関係を判断しようとする。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんぴ	—	253	<ul style="list-style-type: none"> 4 年「割合」、5 年「小数のかけ算」、「小数のわり算」の学習をふり返る。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項の理解を確かめる。 	

(課題設定) ①割合	1	172 173	・導入では、関係図やことばの式で、希望者÷定員の計算をして何倍かを求めることを確認する。	○演奏する楽器の希望調査の結果から定員と比べて希望者が多いのはどの楽器かを考えることを通して、単元の課題をつかむ。【態度】 ○割合の意味について理解し、定員をもとにした希望者の割合を求めて比較する。【知・技】	
	2	174	・関係図や線分図のかき方を確実におさえ、活用できるようにする。	○5年生全体をもとにしたときの楽器を演奏した人の割合や歌をうたった人の割合、また、歌をうたった人が楽器を演奏した人の何倍かを求める。【知・技】	★もっと練習 p.273 に進む。
	3	175	・関係図や線分図のかき方を確実におさえ、活用できるようにする。	○全体で借りられた本が 200 冊で、5年生が借りたのはその 0.35 にあたるとき、その冊数(比較量)を求める。【知・技】	★もっと練習 p.273 に進む。
	4	176～177	・関係図や線分図のかき方を確実におさえ、活用できるようにする。	○図書室を利用した人が昨日の 1.6 倍で 24 人のとき、昨日の人数(基準量)を求める。【知・技】	★もっと練習 p.273 に進む。
②百分率	5	178	・関係図や線分図のかき方を確実におさえ、活用できるようにする。	○百分率について知り、百分率と小数倍との関係について理解する。【知・技】 ○割合を求め、百分率で表す。【知・技】	★もっと練習 p.274 に進む。
	6	179	・関係図や線分図のかき方を確実におさえ、活用できるようにする。	○百分率を使った問題で、基準量や比較量を求める。【知・技】	★もっと練習 p.274 に進む。
③割合を使って	7	180	・関係図や線分図のかき方を確実におさえ、活用できるようにする。	○15000 円の 10%引きの代金(比較量)の求め方を考える。【思判表】	★もっと練習 p.274 に進む。
	8	181	・関係図や線分図のかき方を確実におさえ、活用できるようにする。	○25%引きで代金が 15000 円のとき、もとの値段(基準量)の求め方を考える。【思判表】	★もっと練習 p.275 に進む。
学びのまとめ	9	182～183	・たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。 【知・技】 たしかめよう問 1～問 4 【思判表】 たしかめよう問 5 【態度】 ふりかえろう	★コラム「割・分・厘」で歩合について知り、身のまわりから百分率や歩合が使われているところを見つける。 ★百分率や歩合を使った問題をつくり解き合う。

思 表を使って考えよう(1)

目 標					指導時数・時期
○ 文章題において、数量の関係を表に整理してその増え方に着目して解法を考えることを通して、数の少ない場合から順に調べる考え方を使って解くことができるようにするとともに、用いた表や見方・考え方を生活や学習に活用しようとする態度を養う。 (知) ・伴って変わる 2 つの数量に着目し、それらの関係を表に整理することができる。 (思) ・図や表をもとに考え、2 つの数量の間のきまりを見つけ出すことができる。また、「数の少ない場合から順に調べる」思考法のよさがわかり、これを活用して問題を解くことができる。 (態) ・伴って変わる 2 つの数量をみつけ、それらの関係を表に整理して進んで調べようとする。					2 時間
					2 学期制：12 月中旬
					3 学期制：12 月中旬
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
	1	184	・具体物を使って表にかききまりを見つけさせる。	○紙を折ってできる長方形の数について、折った回数が 1 のときから順に調べて変化のきまりを見つけ、問題解決できる。【思判表】	
	2	185	・具体物を使って表にかききまりを見つけさせる。	○階段状に色板を並べるときの枚数について、段の数が 1 のときから順に調べて変化のきまりを見つけ、問題解決できる。【思判表】	

活 わくわく算数ひろば

小単元	時	ページ	学習内容
●見積もりを使って	1	186	○ある数量以上の部分とそれ以下の部分を差し引いて結果を見積もり、判断することができる。
	2	187	○切り上げや切り捨てを使って結果を見積もり、判断することができる。

* 復習

小単元	時	ページ	学習内容
	1	188～189	○既習事項の確認と持続

14 円と正多角形

目 標					指導時数・時期
○ 円と正多角形について、正多角形の構成や作図などの活動や円周の求め方を考えるといったことを通して、平面図形の理解を深めるとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う。					7時間 2学期制：1月中旬～1月下旬 3学期制：1月中旬～1月下旬
(知) ・正多角形の意味と性質を理解し、作図することができる。また、円周率の意味とその求め方を理解し、円の直径から円周を求めたり、円周から直径を求めたりすることができる。					
(思) ・円や正多角形の性質を活用して、正多角形の作図の仕方を考えることができる。また、直径と円周の関係を、見通しをもって帰納的に考えることができる。					
(態) ・円や正多角形に関心を持ち、その性質について調べようとする。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんぴ	—	253	・3年「円と球」、5年「合同な図形」の学習をふり返る。	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	190	・導入では、実際に紙に円をかいて折り、切る活動を行う。その際、コンパスの使い方を確認する。	○紙を折って正六角形をつくり、正多角形について調べていくという単元の課題をつかむ。【態度】	★問1の解決後、紙に円をかいて折り、一度だけ切って、正三角形や正方形、正八角形をつくる方法を考える。
①正多角形		191	・問1の学習を通して、多角形と正多角形の違いを明らかにする。	○正多角形の意味を理解する。【知・技】	
	2	192	・問2では、分度器の使い方を確認しながら取り組む。	○正六角形のかき方を考える。【態度】 ○円の中心のまわりの角を等分して正五角形や正八角形をかく。【知・技】	
	3	193	・問5では、長さをはかり取るコンパスの使い方を確認しながら取り組む。	○半径の大きさに開いたコンパスを使って円周を区切ると、正六角形がかけられることを考える。【思判表】	★問7を発展させて、いろいろな模様づくりに取り組ませる。
(課題設定)	4	194	・問2では、円周÷直径の計算に電卓を使ってもよい。	○円周が直径のおよそ何倍かを考える。【思判表】 ○円周測定マシンを使って、円周と直径の関係を調べ、円周率や円周を求める式について理解する。【知・技】	★測定誤差をなるべくなくするための方法として、何度か測定して平均を利用すればよいことに気づかせる。
②円周と直径		195～196			
	5	197	・問6では、円周÷直径、直径×3.14の計算に電卓を使ってもよい。	○円周率を用いて、円周や直径を求める。【知・技】 ○身のまわりの円の形をしたものをみつけ、その円周や直径を調べる。【態度】	★もっと練習 p.275に進む。
③円周と比例	6	198	・問1では、まず、円周を求める公式を確認する。	○円の直径と円周の関係を表にかいて調べ、円周は直径に比例することを理解する。【知・技】	
学びのまとめ	7	199	・たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。 【知・技】 たしかめよう問1・問2 【思判表】 たしかめよう問3・問4 【態度】 ふりかえろう	

15 割合のグラフ

目 標					指導時数・時期
○ 割合のグラフについて、帯グラフや円グラフを用いた分類・整理の仕方を理解し、それをもとに事象の特徴を考察したり説明したりすることを通して、統計的に問題解決する力を育むとともにその方法を生活や学習に活用しようとする態度を養う。					6時間 2学期制：1月下旬～2月上旬 3学期制：1月下旬～2月上旬
(知) ・帯グラフや円グラフについて理解し、帯グラフや円グラフを用いて資料を整理することができる。また、統計的な問題解決の方法を理解することができる。					
(思) ・帯グラフや円グラフをもとに適切に判断したり、集めた資料を整理するのに適切なグラフを選択したりすることができる。また、得られた結論について多面的に考えることができる。					
(態) ・帯グラフや円グラフのよさや統計的な問題解決の方法を知り、身のまわりの事柄などを調べるときにそれをいかそうとする。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんぴ	—	253	・5年「割合」の学習をふり返る。	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	200	・導入では、表の収穫量から全体に対する割合をどのように求められるかを確認する。	○都道府県別のみかんの収穫量の割合を表した帯グラフや円グラフをみて、単元の課題をつかむ。【思判表】	★もっと練習 p.276に進む。
①帯グラフと円グラフ		201		○帯グラフと円グラフの仕組みを理解し、それらのグラフをよむ。【知・技】	
	2	202～203	・割合を求める計算に電卓を使ってもよい。	○北海道の作物別の産出額を、帯グラフと円グラフに表す。【知・技】	★帯グラフや円グラフをみて、どんなことがわかるかを話しあわせる。 ★もっと練習 p.277に進む。

	3	204～205	・問1の②では、どの資料を見ればよいかを1つずついいねいに確認しながら、全体で学習を進める。	○家庭で消費されるエネルギーに関する複数のグラフから、情報を適切によりとり、問題を解決する。 【思判表】	★問2で、p.206～207で取り組む統計的な解決の流れについて紹介する。
②帯グラフと円グラフを使って	4 ・ 5	206～207	・「総合的な学習の時間」等と関連づけて、支援を受けながら統計的な解決をはかりまとめる。	○統計的な問題解決の方法について知り、身のまわりから問題をみつけて解決をはかる。【態度】	★「総合的な学習の時間」等と関連づけて、自ら課題をみつけ統計的な解決をはかりまとめる。
学びのまとめ	6	208～209	・たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。 【知・技】たしかめよう問1・問2 【態度】ふりかえろう	★やってみように取り組む。

＊ 復習

小単元	時	ページ	学習内容
	1	210～211	○既習事項の確認と持続

16 角柱と円柱

16 角柱と円柱					
目 標				指導時数・時期	
○ 角柱や円柱について、観察を通してその分類や意味を理解し、その構成要素に着目して性質を調べたり見取り図や展開図のかき方を考えたりすることを通して、立体図形の理解を深めるとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う。				6時間 2学期制：2月上旬～2月中旬 3学期制：2月上旬～2月中旬	
(知)・角柱や円柱の意味を知り、その特徴を調べて理解することができる。また、三角柱や円柱の見取り図や展開図をかくことができる。					
(思)・角柱や円柱の構成要素に着目して、分析的に特徴を考えることができる。また、見取り図や展開図のかき方を考えることができる。					
(態)・角柱や円柱の特徴に関心をもち、進んでその特徴を調べたり、見取り図や展開図をかこうしたりする。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんぴ	—	254	・4年「直方体と立方体」の学習をふり返る。	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	212～213	・立体模型を用意しておき、観察させる。	○いろいろな箱を観察することを通して、角柱や円柱について調べていくという単元の課題をつかむ。 【態 度】 ○角柱と円柱の意味を理解する。 【知・技】	
①角柱と円柱	2	214～215		○底面や側面の形、それらの位置関係を調べることを通して、角柱、円柱について理解する。【知・技】	★辺の相等や平行に着目させ、簡単な見取り図をかけるようにさせる。
②見取り図とてん開図	3	216	・辺の相等や平行に注意するように促す。	○角柱や円柱の見取り図をかく。【知・技】	
	4	217	・立体模型を用意しておき、観察を通して展開図をかかせる。	○面の位置関係に着目し、角柱の展開図がどのようなになるかの見通しをもってかく。【思判表】 ○角柱の展開図をかいて、組み立てる。【知・技】	★もっと練習 p.278に進む。
	5	218	・側面の円と接する長さについて立体模型を使って考えさせる。	○面の位置関係に着目し、円柱の展開図がどのようなになるかの見通しをもってかく。【思判表】 ○円柱の展開図をかいて、組み立てる。【知・技】	★もっと練習 p.278に進む。 ★p.219の問3のような展開図を使った問題づくりに取り組む。
学びのまとめ	6	219	・たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。 【知・技】たしかめよう問1・問2 【思判表】たしかめよう問3 【態 度】ふりかえろう	

17 速 さ

17 速 さ					
目 標				指導時数・時期	
○ 速さについて、その比べ方や表し方を理解し、いろいろな速さに関する問題を解決することを通して、速さ・道のり・時間の関係の理解を深めるとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う。				6 時間	
(知) ・速さの意味について理解し、速さを時速、分速、秒速などの単位を用いて表したり、比べたりすることができる。				2 学期制：2 月中旬～2 月下旬	
(思) ・単位量あたりの考え方をを用いて、道のりと時間の関係をもとに速さを考えたり、道のりや時間の求め方を考えたりすることできる。				3 学期制：2 月中旬～2 月下旬	
(態) ・単位量あたりの考え方をを用いて、進んで速さ・道のり・時間の関係を調べようとする。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんぴ	—	255	・5 年「単位量あたりの大きさ」の学習をふり返る。	○既習事項の理解を確かめる。	

(課題設定)	1	220 221	・導入では、速さは時間と道のりという 2 量の関係からとらえられることを確実にさせる。 ・単位量あたりを求める計算に電卓を使ってもよい。	○50m 走や 5 分間走の場面で、時間と道のりの関係として速さがとらえられることをとらえ、単元の課題をつかむ。【態 度】 ○動物の速さを、単位量あたりの大きさをを使って比べる。【知・技】	★1 秒間あたりの道のりで比べたときと、1m あたりの時間で比べたときの違いやそれぞれのよさについて話しあう。
	2	222	・時速、分速、秒速の違いを確実におさえ、問 4 では答え方に注意させる。	○速さの表し方を理解し、時間の単位に応じて時速、分速、秒速で速さを表す。【知・技】	★もっと練習 p.279 に進む。
	3	223	・問 1 の㊦では、まず、3 時間 30 分を 3.5 時間としてよい理由をおさる。	○時速 230km の新幹線が 2 時間や 3.5 時間走ったときの道のりの求め方を考える。【思判表】	★もっと練習 p.279 に進む。
	4	224	・時間を□として、 $25 \times \square = 300$ というように立式して考えることも認める。	○時速 25km で進む台風が 300km や 800km 進むのにかかる時間の求め方を考える。【思判表】	★もっと練習 p.279 に進む。
	5	225	・時間の単位換算を確認する。	○時速 900km と秒速 300m とでは、どちらが速いかを考え、分速と秒速との相互の関係を理解し、いろいろな速さを比べる。【知・技】	★問 3 でみつけた身のまわりの速さを使って、問題づくりに取り組む。 ★もっと練習 p.279 に進む。
学びのまとめ	6	226～227	・たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。 【知・技】 たしかめよう 問 1 ・ 問 2 【思判表】 たしかめよう 問 3 ・ 問 4 【態 度】 ふりかえろう	

18 変わり方					
目 標				指導時数・時期	
○ 伴って変わる 2 つの数量について、その関係を○や△を使って式に表したり表に整理して変わり方を調べたりすることを通して、変化の特徴をとらえたり比例するかどうかを判断したりすることができるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。				3 時間 2 学期制：2 月下旬～3 月上旬 3 学期制：2 月下旬～3 月上旬	
(知) ・伴って変わる 2 つの数量の関係を、○や△を使って式に表したり、変わり方を表にかいて調べたりすることができる。 (思) ・伴って変わる 2 つの数量を見つけ、その関係を式や表を用いて考えることができる。また、その関係が比例するかどうかを判断し、説明することができる。 (態) ・進んで伴って変わる 2 つの数量をみつけようとしたり、その関係や変化を式や表を用いて調べようとしたりする。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんぴ	—	255	・4 年「変わり方」、5 年「比例」の学習をふり返る。	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	228 229	・導入では、具体的な 3 つの場面で、何が変化しているかに気づかせる。	○日常場面で伴って変わる 2 つの数量をとらえ、単元の課題をつかむ。 【態 度】 ○10 才差の姉妹の年齢の関係を、○や△を使って式に表したり表に整理したりして調べる。【知・技】	★導入では、具体的な 3 つの場面で、それぞれどんな問題がつくれそうかを考える。
	2	230～231	・具体的な場面を取り上げながら㊦の表から取り組んでもよい。	○分速 250m で進むロープウェーが進んだ時間と道のりの関係を、○や△を使って式に表したり表に整理したりして調べる。【知・技】 ○2 量が比例することに気づき、そういえるわけを説明する。【思判表】	★比例について、㊦だけでなく㊧での結果も含めて、ことばでまとめる。
	3	232～233	・具体的な場面を取り上げながら㊦の表から取り組んでもよい。	○100 円のプリンを何個か買って 50 円の箱に入れてもらうときのプリンの個数と代金の関係を、○や△を使って式に表したり表に整理したりして調べる。【知・技】 ○2 量が比例していないといえるわけを説明する。【思判表】	★コラム「多角形の頂点の数と角の大きさの和の関係」で、表にある数値を $180 \times (\bigcirc - 2) = \Delta$ にあてはめて、頂点の数と内角の和の関係を確かめる。

思 表を使って考えよう(2)					
目 標				指導時数・時期	
○ 文章題において、数量の変化を表に整理してその和や差に着目して解法を考えることを通して、変わり方のきまりをみつける考え方を使って解くことができるようにするとともに、用いた表や見方・考え方を生活や学習に活用しようとする態度を養う。				2 時間 2 学期制：3 月上旬 3 学期制：3 月上旬	
(知) ・伴って変わる 2 つの数量の関係に着目し、数量の和や差の変化を表に整理することができる。 (思) ・数量の和や差の変化を整理した表を使って考え、きまりを見つけて問題を解くことができる。 (態) ・表を使って考えるよさに気づき、進んで表からきまりを見つけて問題を解こうとする。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
	1	234	・何がわかればよいかを確認し、表を作成する。	○出会うまでの時間と道のりの変わり方を表にかいていき、きまりを見つけて問題を解決する。【思判表】	★問 1 と同じ場面で、速さや道のりを変えた問題に取り組む。
	2	235	・何がわかればよいかを確認し、表を作成する。	○追いつくまでの時間と道のりの変わり方を表にかいていき、きまりを見つけて問題を解決できる。【思判表】	★問 3 と同じ場面で、速さや時間を変えた問題にも取り組む。

活 わくわく算数ひろば				
小単元	時	ページ	学習内容	
●算数ラボ	1	236～237	○直進と回転の命令を組み合わせて、正多角形を作図するプログラムをつくることができる。	
●みらいへのつばさ	2	238～239	○表やグラフなどの資料から必要な情報を選択し、食料自給率についての問題を解決できる。	
	3	240～241	○食料自給率の課題を話しあい、課題解決に向けた計画を考える。	

＊ もうすぐ 6 年生 (5 年のふく習)				
小単元	時	ページ	学習内容	
	1	242～243	○5 年生の学習内容の確認と持続	
	2	244～245		
	3	246		

★ 学びのサポート	
ページ	学習内容
248～255	・じゅんぴ
256～279	・もっと練習
280～301	・算数資料集

※巻末にある「学びのサポート」は、少人数学習や自学自習など柔軟な扱いができるように時間配当をしていません。
すべての児童が一律に学習する必要はありません。